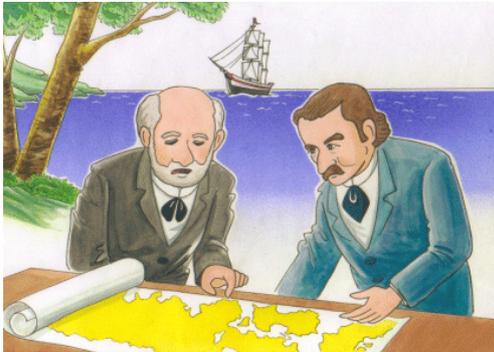


まめじてん シーボルト豆辞典

ーシーボルトへのぎもんに答ますー



豆辞典シリーズ 3

江戸時代の日本のようすと、地図・測量のことを、世界にしょうかいしたことで、ゆうめいなシーボルトについての、ちょっとしたぎもんにお答えします。

ぎもんへの答は、だれでもが、かんたんにわかるようにくふうしたつもりですが、どうしてもわかりにくい、むずかしいところが、まだのこっているかもしれません。そこは、読みとばすなど、自由にお読み下さい。また、むずかしい言葉などは、お父さんやお母さんに聞いて下さい。

そして、もっとシーボルトと地図・測量について知りたいと思った人は、図書館などを利用するとよいでしょう。

作・絵 やまおか みつはる

表紙絵 伊藤久美子 (伊藤デザインルーム)

もくじ

1. シーボルトは、どこの国の人ですか
2. シーボルトの職業(しょくぎょう)は
3. シーボルトは、長崎出島(ながさきでじま)で何をしていましたか
4. シーボルトは、日本各地を旅行しましたか
5. シーボルトは、日本で測量(そくりょう)をしましたか、地図を作りましたか
6. シーボルトは、どのような方法で、日本地図を手に入れましたか
7. シーボルトが、こっそり地図を手に入れたことを、幕府(ばくふ)はどのようにして知りましたか
8. シーボルトは、処罰(しょばつ)されましたか
9. 日本を追放(ついほう)されたのちのシーボルト 1
10. 日本を追放(ついほう)されたのちのシーボルト 2
11. シーボルトは、“あじさい”に「おたきさん」の

なまえをつけたそうですが

12. シーボルトがみならった、ケンペルってどんな人?

(主に参考とした図書)

「伊能忠敬測量日記」 佐久間達夫編著 大空社

「伊能忠敬の科学的業績」 保柳睦美編著 古今書院

「シーボルト先生1、2、3」 呉秀三著 平凡社

「甲子夜話」 松浦静山 東洋文庫 平凡社

「シーボルト記念館」 パンフレット

(シーボルト記念館：長崎県長崎市鳴滝 2-70)

勉強や研究をてつだううちに、医学のことだけではなく、動物学や植物学、民族学(みんぞくがく：おなじような文化やしゅうかんをもつ人たちと、ほかの人たちのちがいなどを研究すること)などにも、きょうみをもち、大学ではこれらも学びました。

シーボルトは、ドイツ人ということになります。



1. シーボルトは、どこの国の人ですか

シーボルトは、今から200年ほど前の1796年に、バイエルン王国(現在のドイツ)のヴェルツブルグ市で生まれました。

シーボルトのお父さんや、おじいさんも、ゆうめいなお医者(いしゃ)さんでした。そのことからでしょうか、シーボルトも大学に入ると、医学(いがく)を学びました。

シーボルトは、お父さんが早くなくなったこともあって、その友人であった大学教授(きょうじゅ)のところに下宿(げしゅく)していました。そして、大学では、外科、内科、産科(さんか)などたくさんの医学のことを学び、近くの町でお医者さんになりました。

ところが、下宿先の教授(きょうじゅ)の

2. シーボルトの職業(しょくぎょう)は

シーボルトは、このように大学を卒業(そつぎょう)すると、一度はお医者さんになりましたが、ほかの国々やちいきのことについて、研究したいという、きぼうをもっていました。

ある日から、オランダ陸軍(りくぐん)の医師(いし：お医者さん)としてつとめることになりました。

職業は医師ですが、民族学や博物学(はくぶつがく：動物、植物、鉱物(こうぶつ)など多くの物について調べ研究する)の学者でもあったのです。

そのころ、オランダは東アジアで貿易(ぼうえき)を進めていて、バタビア(今のイン

ドネシアのジャカルタ)が、その中心になっていました。

1822年シーボルトは、オランダ大使館(たいしかん)の医師(いし)として、バタビアをめざして出発しました。最初(さいしょ)は、バタビアにつとめていましたが、1823年になって、日本にくることになりました。

シーボルトには、長崎出島にあったオランダ商館(しょうかん)の医師という仕事のほかに、日本とオランダの貿易をさかんにするための調査(ちょうさ)という仕事も命令(めいれい)されていたようです。

このようにして、シーボルトは、ほかの国々や地方のことについて研究するという、きぼうをかなえました。

ん)で医師の仕事をしなが、長崎の町のようすや、日本の人々の考え方などを知りたいと考えていました。

ですから、出島でオランダ人のための医師としてすごすうちに、出入りする商人や武士(ぶし)、そして、その家族の病気をなおしてあげました。やがて、出島には良いお医者さんがいることがひょうばんになり、日本人に医学(いがく)や植物学などを教えることが始まりました。

そのご、長崎奉行(ながさぎぶぎょう)から、ゆるしがでて、長崎の町なかで日本人を治療(ちりょう)し、学問を教えるようになりました。

さらに、多くの病人を助けたことなどで、

3. シーボルトは、長崎出島(ながさきでじま)で何をしていましたか

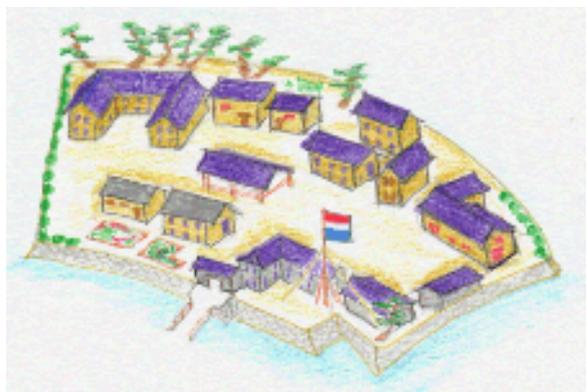
1823年8月、バタビアから長崎出島につきました。

当時、鎖国(さこく：外国との貿易<ぼうえき>や行ききを、せいげんすること)をしていた日本にとって、出島だけが外国の品々や学問(がくもん)・文化に開かれた場所でした。とくに、ここではオランダとの貿易がゆるさされていました。

長崎には、そうした西洋の品々を手に入れたい商人(しょうにん)や、文化や学問について知りたい学者などがたくさんきていました。

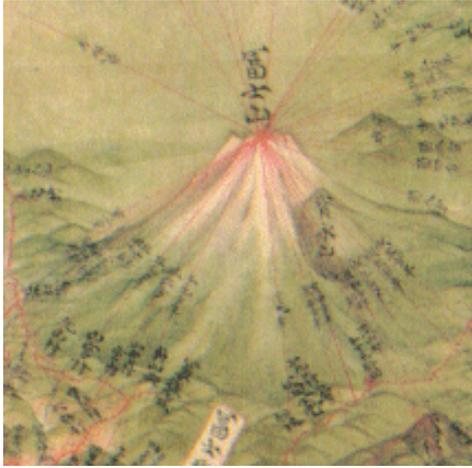
シーボルトは、オランダ政府の命令もありましたから、出島のオランダ商館(しょうかん)

シーボルトの名医(めいいい：よいおいしゃさん)として、学者としての評判(ひょうばん)が、日本各地に広まりました。



長崎出島

4. シーボルトは、日本各地を旅行しましたか



「伊能中図」(武楊堂)より

シーボルトは、長崎市民の病気をなおすとともに、多くの日本人に学問を教えたのでした。

その方法は、町なかにあった鳴滝塾（なるたきじゅく）での授業（じゅぎょう）のほか、生徒には日本の歴史や植物などさまざまな問題をあたえて研究させ、報告（ほうこく）させるという方法でした。

これによって、シーボルトのもとには、日本についてのいろいろな報告書のほかに、日本各地の植物やどうぐなどがたくさん集められました。

長崎の町を、ほぼ自由に歩くことができた

シーボルトでしたが、そのほかの地方を旅行することは、ゆるされてはいませんでしたから、塾の門弟（もんてい：生徒）の作った報告書などが、日本をくわしく知るのにやくだちました。

シーボルトがつとめていた、出島の商館長（しょうかんちょう：いまのオランダ大使にあたる人）は、4年に一度江戸に行き、将軍（しょうぐん）にあいさつすることになっていました。そこで、シーボルトもこの旅（たび）にくわりました。

長崎と江戸への往復（おうふく）の旅は、かごや船を利用しましたから、数ヶ月もかかる大旅行でした。その時に各地で植物採取（しょくぶつさいしゅう）をし、各地の医者や学者などと会い、日本人のようすをくわしく調べたのです。

5. シーボルトは、日本で測量（そくりょう）をしましたか、地図を作りましたか

長崎と江戸の間を旅したシーボルトは、植物採集（しょくぶつさいしゅう）だけでなく、日本の地理についても調べました。

どこに港（みなと）があるか、何が名産（めいさん）か、どのくらいの人がすんでいるかなどです。

もちろん、山の名前や高さ、町や港の名前や位置なども調べましたが、そのころの日本は、外国人がこのようなことを調べることを、禁止（きんし）していました。

しかし、シーボルトが測量をするのを、いちぶのお役人（やくにん）は、見ないふりをしていました。

旅(たび)をしながら、各地の位置(いち)をクロノメータ(：もちはこびできる、ぜんまい時計)という器械(きかい)などで測(はか)り、気圧で山などの高さを測り、港(みなと)のようすなどもできるだけ調べました。また、各地の科学者(かがくしゃ)からは、書物(しょもつ：本)や各地の地図も手に入れました。

富士山の高さも門弟(もんてい：生徒)の二宮敬作(にのみや けいさく)に、頂上(ちようじょう)にのぼらせて、高さ測ったといひます。(3794m、1828年)

しかし、日本にいるときに、自分の手で日本全体の地図を作ったことはなかったようです。



6. シーボルトは、どのような方法で、日本地図を手に入れましたか

このように、シーボルトは長崎にやってくる各地の科学者や、商館長(しょうかんちよう)とともに江戸に向かった時に、知り合った人たちから、日本のようすを知りました。

また、病気の治療(ちりよう：なおすこと)をすることで、あるいはヨーロッパのことを教える代わりに、日本の書物や各地の地図も手に入れました。

そうした中に、伊能忠敬の先生であった高橋至時(たかはし よしとき)の子、高橋景保(かげやす)がいました。景保は、シーボルトから、そのころの世界のようすを聞き、そして、いくつかの地図や書物を見せてもらいました。

その時、景保がどうしても手に入れたいものに、東インドの地図や世界のようすをしるした本がありました。

そのころの日本は、地図を外国に持ち出したり、外国人にわたしたりすることを禁止(きんし)していました。

景保は、なやみましたが、めずらしい書物や東インドの地図を手に入れて日本に紹介することは、日本のためになると考えました。

話を聞いたシーボルトは、忠敬の作った日本地図と交換(こうかん)することにしました。

7. シーボルトが、こっそり地図を手に入れたことを、幕府（ばくふ）はどのようにして知りましたか

伊能忠敬が作った日本地図を手に入れたシーボルトは、日本での仕事を終わって、オランダへ帰ることになりました。

そのとき、シーボルトにうたがいがかけられて、すまいの搜索（そうさく）を受けることになりました。その結果、外国への持ち出しが禁止されていた地図や葵の御紋（あおいのごもん）入りの服などが見つかり、シーボルトは軟禁（なんきん：部屋から自由に出入れない）されました。

そのとき、シーボルトは日本全図をすばやく写しとったのでしょう。

のちに、ゆるされてオランダに帰ったシーボルトは、日本を紹介する本を書きましたが、その中には、その日本全図をもとにした地図がのっています。

搜索（そうさく）を受けるきっかけになったのは、幕府の役人が、高橋景保らがシーボルトと親しくしているということ、地図を送ったことを知ったからです。それは、間宮林蔵が奉行所（ぶぎょうしょ）に知らせたからだという、つぎのような話があります。

ある日のこと、林蔵のところに、シーボルトから小包が届（とど）きました。

小包は、林蔵が探検して知った北方（ほっぽう：日本の北の地方のこと）の資料を手に入れたために送ったもののようでした。

林蔵は、シーボルトとは顔みしりでしたが、

外国人からのおくりものを、うけとってはいけないという国の規則（きそく）をまもり、小包をそのまま奉行所にとどけたのです。

そのことから、高橋景保とシーボルトが親しくしていること、地図や書物を交換していることが分かり、景保やシーボルトが逮捕（たいほ）されることになったのだという話です。

8. シーボルトは、処罰（しょばつ）されましたか

前にもお話したように、シーボルトの集めた品々をつんだ船が、長崎の港（みなと）の先でそうなんしました。

その船の中からは、日本全図だけでなく、将軍からある人におくられた、“あおいのごもん”（：しょうぐん家のしるし）のついたきものなど、外国人にわたしてはいけないものが、たくさん見つかりました（1828年）。

奉行所は、シーボルトと、この事件に関係（かんけい）した日本人を逮捕（たいほ）し、取り調べを始めました。

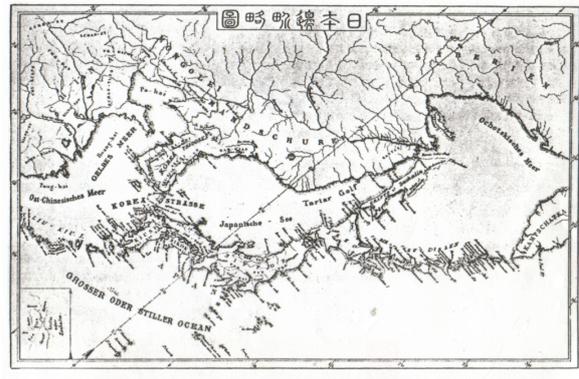
長崎では、通訳（つうやく）の吉雄忠次郎（よしお ちゅうじろう）、江戸では高橋景保（たかはし かげやす）のほか、シーボルト

や景保の門弟（もんてい）、長崎の役人など、たくさんの人たちが、つかまり調べられました。

きびしい取り調べで、高橋景保は牢（ろう）で死にました。それだけでなく、景保の長男小太郎 25 歳、次男の賢次郎 19 歳も島流しになりました。

シーボルトも出島から出ることをゆるされずに、14 か月もの間、調べられましたが、のちに日本から追放（ついほう：おいはらうこと）になりました(1830年)。

もちろん、シーボルトとしたしくしていたことで調べられた 30 人ほどの役人や、通訳なども処罰（しょばつ：ばつをうけること）されました。



シーボルトの「日本図」

9. 日本を追放（ついほう）されたのちのシーボルト 1

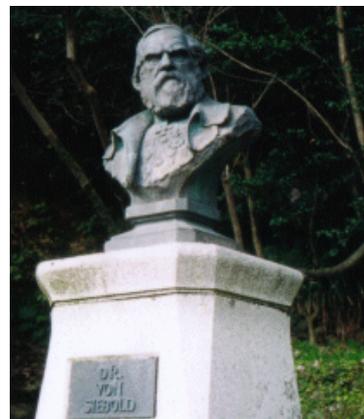
長い、苦しい取り調べうけたシーボルトでしたが、日本を追放されたのちに持ち帰った地理（ちり）と地図に関する書類は 160 種類にもなりました。

その中には、蝦夷や樺太（えぞやからふと）の地図と多くの日本各地の国絵図（くにえず）や、忠敬の日本全図の写（うつ）しもふくまれていました。

帰国後シーボルトは、それらの地図などをもとに、「日本図」を初め「長崎湾の図」、「蝦夷地地図」、「朝鮮半島の地図」などのたくさん地図を発行しました。

特にシーボルトの代表作である、「日本」と

いう本の中で、伊能忠敬と間宮林蔵の地図がせいかくであること、彼が、間宮の瀬戸（まみやのせと：間宮海峡のこと）を発見したことを、しょうかいしています。



シーボルトの銅像
(シーボルト記念館：長崎市)

また、この本にしょうかいされた「日本全図」から、伊能忠敬らの測量技術（そくりょうぎじゅつ）と日本地図のせいかくさが世界中にみとめられました。

一度は幕府役人につかまったシーボルトが、こっそり持ち帰った地図によって、日本の地図がせいかくであるとみとめられたのは、おもしろいことです。

その後 1858 年、日本とオランダの通商条約（つうしょうじょうやく）がむすばれ、シーボルトの罪（つみ）もゆるされたので、30 年ぶりに日本に来ました（1859 年）。

す。

そのご、日本での罪（つみ）がゆるされたシーボルトは、国で生まれた長男のアレクサンダーをつれて日本にやって来ました（1859 年）。

その時、シーボルトは 63 歳（さい）、「いね」は 32 歳になっていました。「いね」は、シーボルトの門弟の指導（しどう）をうけて、長崎で産科医（さんかい：こどもがうまれることにかんけいした、おいしゃさん）を始めていました。

日本で最初の女医（じょい：じょせいのおいしゃさん）になったのです。

そのときシーボルトは、日本とオランダとの貿易（ぼうえき）などのしごとをしましたが、2 年 7 か月ほどで日本をはなれ（1862）、

10. 日本を追放（ついほう）されたのちのシーボルト 2

長崎にすんでいたとき、シーボルトには「おたき」という奥さんがいました。

やがて、「おたき」には「いね」という女の子が生まれました。

シーボルト事件がおきたのは、「イネ」が 2 歳 8 か月の時でした。シーボルトは、日本をはなれるとき、表に「おたき」の、裏（うら）には「いね」のすがたを書いた、小さな箱（はこ）の中に、二人の髪の毛（かみのけ）を入れて持ち帰ったといいます。それほど、二人のことを思っていたのでした。

その「いね」の毛は、ひと目で混血（こんけつ）と分かる茶色のものであったといいま

まもなく亡（なく）になりました（1866）。



おたきとイネ

11. シーボルトは、“あじさい”に「おたきさん」のなまえをつけたそうですが

シーボルトが日本にくる前にも、出島にはケンペル、ツェンベルクという人が、おなじように医師として、出島のオランダ商館にきていました。

ケンペルも、日本を紹介し、部分的ですが日本の地図を作っています。ツェンベルクはケンペルの調べ方を、シーボルトはケンペルとツェンベルクの方法に学んで、日本のことをしらべたのです。

その時、彼らは、地図だけでなく、多くの植物（しょくぶつ）とその種（たね）を集めました。もちろん、博物学という学問のためでもあります。ヨーロッパでは、東洋（と

うよう）のめずらしい香辛料（こうしんりょう：とうがらしやこしょうなど、料理にかおりや味をつけるもの）をさがしていたのです。



ケンペルはウメ、ヤマブキ、シュウカイドウ、サザンカなどをヨーロッパにしょうかいしました。シーボルトも、テッセン、ウツギ、そしてアジサイなどに名前をつけました。ツェン

ベルクもおなじです。

その中の一つ、ヨーロッパにはなかったアジサイの花の正式な名前に「おたきさん」と、つけました（＝ヒドランゲア・オタクサ）。出島には、りっぱな植物園（しょくぶつえん）もあり、シーボルトが、もち帰った植物やその標本（ひょうほん）は、一万点にもなったそうです。



12. シーボルトがみならった、ケンペルってどんな人？

ケンペルは、1651年にドイツのレムゴーという町で、牧師（ぼくし）の子として生まれました。大学では、歴史（れきし）や医学（いがく）のほか、薬学（やくがく）、博物学（はくぶつがく）などを学びました。

あるとき、スウェーデン王国のペルシャ（今のイラン）への使節団（しせつだん）に、さんかすることになり、ペルシャにむかいました

そこでは、スケッチや測量をして、多くのことを記録（きろく）しました。このことが、ケンペルの東洋（とうよう）へのかんしんを大きくすることになります。

そのご、ケンペルは、スウェーデンには帰

らずに、オランダの東インド会社がある、バタヴィア（今のインドネシアのジャカルタ）にむかったのです。

1690年、長崎出島の商館（しょうかん）つきの医師（いし）として日本にきます。ケンペルは初め、出島から出ることをゆるされていませんでした。しかし、オランダ語を教える代わりに、日本語や日本ことを学び、知ることができました。

日本にいる間に、商館長のおともをして、江戸に二回行きました。そのとき見たこと、聞いたことを、「日本誌（にほんし）」という本にまとめたのです。この本の中には、将軍綱吉（しょうぐん つなよし）のころの、日本の町や人々のようすが、くわしく書かれています。

ケンペルは、医師という、おもてむきのやくめのほかに、知らない国、日本を調べるといふ、やくめももっていたのです。本の中には、彼が作った地図もあります。

長崎から江戸までの地図は、かくして持っていたコンパスを使って、まわりの役人にきづかれないように測量し、手帳にかいたといひます。

もちろん、多くの植物も集めましたから、シーボルトのことと、そっくりです。



ケンペルの使ったはんこ



シーボルト記念館

2004年10月 第1刷発行

著者：やまおか みつはる

発行所：藤 庄 印 刷

定価（税込み）200円
（本体200円+税）

「オフィス 地図豆」

（店主 やまおか みつはる）

〒300-1237 茨城県牛久市田宮 2-18-3

tel : 029-830-7511

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~kaempfer/>

Copyright 2008 オフィス地図豆